

スピーチロックとは？

社会福祉法人 遠州中央福祉会
豊田ゆうあいの里

- ○○してはだめ
はやく○○して
ちょっと待って 等 言葉による行動の制限、制止
- 身体拘束・薬物拘束とならび『魔の3ロック』と呼ばれる。

中でも他の2つとは違い目に見えにくく、無意識のうちに
使われ、習慣になりやすいもの。

- ちょっと待ってて・・・使わない。
どうしてもすぐ出来ない場合は、理由や時間、具体的に伝える。
- 座って下さい・・・使わない。
立った理由を確認する。
- ダメ・・・使わない。

M様

- 利用期間長い
- 「なぜここにいるんだろう？家に帰りたい」
- 歩行1人では不安定で、転倒の危険が高い
- 認知症あり、繰り返し家へ行こうと歩こうとされる
ことがある。



日中やってることがない。
考える時間が長いため心配事ばかり出てきてしまう。

- 一対一で話をする時は、自分の言葉に慎重になり対応できたが、他の対応と重なった際、立ってしまうと、スピーチロック発してしまった。
- 職員一人の時間帯、余裕持てず「待って」などの言葉は使わなかったが、口調荒くなってしまった。

居たくない・帰りたい → 立つ



制限される ← スピーチロック

- ① スピーチロックは、身体拘束や薬物による拘束を同じ『拘束』であるという重みを認識すること。
- ② 利用者はお客さんであることや人生の先輩であるということを職員が再認識すること。

- ① 認知症への理解を深めること
- ② 利用者のアセスメントをしっかりと行うこと
- ③ 一人ではなく、複数の職員で対応できる工夫をしていくこと
- ④ 職員自身の心身の安定を心がけること

**利用者のことが大切だという思い
理解したいという思い、信頼関係を
結ぼうと努力する思いを持つ事**